

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月19日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3890500220
事業所名	グループホームふたばの森
(ユニット名)	どんぐり(1階)
記入者(管理者)	
氏名	高橋 俊道
自己評価作成日	平成29年10月3日

<p>【事業所理念】 利用者とともに、楽しく笑顔のある暮らし ①1日1日、その時その時を大切に ②生活者を大切に思う心(愛) ③ありがたみを受け入れる ④利用者一人ひとりの思いを大切に</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 運営推進会議についてより多くの人に参加できるように、運営推進会議の参加者の見直し及び会議運用の見直しを行う。 【取組内容】①地域包括支援センター職員への派遣の要請 ②現参加者への協力者の呼びかけ・依頼 ③入居相談及び申込者への参加の呼びかけ 【その結果】地域包括支援センター職員への派遣要請は介護福祉課から市担当職員を派遣しているため行政からの派遣は1名にしてほしいとの回答あり。②現参加者への呼びかけ及び③入居相談者への参加呼びかけについては新たな参加者の獲得にはつながっていないため新たな取り組みが必要である。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所が開設して6年がたち、地域との交流を重ねてつながりが深まってきており、利用者を見守ってくれる近隣の住民の支援も見られ、さらに地域の一員としてお互いに支え合える関係づくりに取り組んでいる。食事は職員が交代で献立を考えて、食材の買い物や食事の下準備を利用者と一緒に行っている。入居時から重度化が見られる利用者もいるが、利用者のできることを大切にして、一人ひとりが楽しみをもって安心して暮らしていくことができるよう支援している。</p>
--	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	日常会話の中から希望や意向の把握に努めて、家族の面会前後に意向の聞き取りを行っている。	◎	/	◎	家族や利用者からの情報に加えて、普段の生活の中で見られる利用者の表情や言動から思いや希望を汲み取っている。暮らし方の希望や思いを記入する様式も整っており、日々の申し送りの機会を活用するなど、職員全員が情報を共有できるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	ケア時に職員個々で感じたこと等の情報を職員間で共有して判断しているが、不十分ではないかと思われる。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時や電話連絡時などに話し合いの機会をもうけている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	生活記録や経過記録に記入して職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	職員間の申し送りや経過記録を参照して見落とさないように注意しているが、十分に配慮ができていないと気がしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前の生活歴や面会時の家族からの会話などで汲み取っている。	/	/	◎	入居前に自宅訪問を行い、本人や家族から今までの生活環境について状況を確認しながら、可能な範囲で情報を得ている。日々の生活から利用者のこだわりや暮らしの中で大切にしてきたことなどを細やかに汲み取り、記録して職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	生活動作の状態や家事作業時の動作の観察にて把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	利用者ごとの体調、なんらかの阻害感等、不快と感じる要因と感情変化との相関を観察し把握に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	△	不快要因を職員間で共有し把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	生活記録や経過記録を参考にしたり、日々の表情変化を観察して把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	ニーズ等の分析は行っているが、本人の視点とはいかがたいのではないかと検討していきたい。	/	/	△	毎月の職員会での話し合いや家族と連携を取りながら必要な支援について検討しているが、さらに利用者の視点での支援内容の検討が必要だと感じており、取組みに期待したい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	職員会や家族との連携にて支援内容を検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	職員会にて話し合い、明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	利用者の思いを組み込んで作成している。	/	/	/	本人や家族から聞き取った思いや意向が反映された介護計画になるよう職員で話し合っ、計画作成担当者が作成している。利用者がどのようなことに生きがいを感じられるか把握し、より良く暮らせるための課題やケア内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	職員会等の話しあいの上で作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活リズムを大きく変化させず、ほどよく刺激がある生活が送れていると思う。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	すべての利用者が盛り込まれた内容にはなっていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	支援経過記録に綴じ込み共有しやすいように工夫している。	/	/	○	利用者ごとのファイルに介護計画を保管し、課題や支援内容を確認している。経過記録に利用者の言葉や行動、エピソードが記載されており、職員間で情報を共有することにより、日々のケアの工夫やアイデアにつなげている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日の記録や日々変化があれば伝達共有を行い支援につなげている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	経過記録や生活記録に細かく記入している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	経過記録や職員会にて話し合い、個別に記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	計画作成担当者が期間ごとに計画を見直して取り組みについて職員に説明している。	/	/	○	定期的に介護計画の見直しを行い、現状に即した内容になっているか計画作成担当者が確認し、職員間で話し合っている。状態の変化があった場合は、その都度利用者や家族の意見も聞き変更している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	職員会にて計画作成担当者が中心となり現状の確認を行い共有をはかっている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた場合は、状況に応じ計画を見直している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	その都度、話し合いの機会をもうけている。	/	/	◎	毎月の職員会で利用者の情報や課題について話し合っている。なるべく多くの職員が出席できるよう配慮しており、出られなかった職員には記録や口頭で伝え、情報の共有に努めている。利用者の日々の状況などは毎日の申し送り時に伝えており、必要がある場合にはその都度話し合いの機会が持たれている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	職員は自身の意見をはっきり言っているのかわからないため、もうひと工夫が必要ではないかと考える。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	参加者確保のため会議日程を勤務表作成時に配慮し工夫している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録と口頭での説明で対応している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送り簿や口頭手段での伝達で共有に努めている。	/	/	◎	利用者の情報や伝達事項は、申し送りノートの活用や経過記録に記入する等して、勤務時間が違っていても職員全員に伝わるような仕組みになっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り簿や職員間の口頭伝達で共有している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	常日頃職員間で話し、努力している。	/	/	/	利用者の重度化により思いや意向を表しにくい場合もあるが、日常の関わりの中でどのようなことに喜びや楽しみを感じているのか気に留めながら支援を行っている。利用者が好みの飲み物を選んだり、新聞広告やテレビを見ながら食べたいものを決めたりするなど、自己決定できる機会を作っている。利用者それぞれに馴染みのある場所などについて声かけをするよう心がけており、昔を懐かしく思い出してもらっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	入浴時など衣類の選択や家事作業時の促し時に作業内容の選択の確認を行っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	水分摂取時の飲料の選択を飲料のパッケージを見せて選択の確認をおこなっている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	起床時や就寝時は、タイミングをみて誘導を行っているため、入浴などの時間も職員の都合で決定しまいがちである。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	利用者個々になじみの言葉かけに心がけ楽しんでもらったり、昔を思い出してもらったりしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	表情などを見て利用者の反応を探っているが、利用者本人がどのように思っているのかわからない。意向にそった暮らしができるよう心がけている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	言葉かけは十分には配慮しているが、稀に、馴れ合い的な言動がないかと思われる。	◎	○	○	利用者の誇りやプライバシーを大切に、声かけには十分配慮している。入浴時に同性介助を希望する利用者には、希望に沿うよう努めている。介助を行う際の声かけや言葉遣いには配慮しているが、トイレ誘導時のふさわしくない声かけや行動を制限するような言動等が見られたり、入室の際にドアを開けっ放しするなど利用者のプライバシー尊重に欠けることもあるので、研修や話し合いによる振り返りの機会を持つなど、利用者本位のケアに努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	大きな声でトイレの言葉かけを行ったり、行動に対し制限するような(スピーチロック)の言動もまれに見受けられる。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	排泄中トイレのドアが開いている場合があるのではないかな。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室のドアが開いたままであることや入室時に十分配慮し行動しているとはいえない。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報保護については入職時に誓約、遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者より昔話を聞いたり、利用者が他利用者の動きなどを職員に伝え、介護上助けられる場面もある。	/	/	/	移動時に利用者が車いすを押したり、声かけをしながら肩をマッサージするなど、利用者同士が支え合う光景がみられる。利用者間でトラブルになりそうな時には、職員がさりげなく間に入り未然に防ぐことで、トラブル解消に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	要介護者が多いため、共助の場面は少ないが、左記の大切さは、ほぼ理解しているのではないかなと思われる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	孤立しないように席を移動してもらったり、居間でテレビを見ながら雑談できるように心がけている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士のトラブルになりそうな雰囲気を察知して、職員が間に入り、混乱を回避し安心できるような言葉かけを行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	家族以外の情報は不足している。把握方法について検討が必要である。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	明確ではないが、利用者一人ひとりの親しみやすい場所を把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	自宅や馴染みの場所へのドライブを支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会の時間や場所は特に設定せず、自由にしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	取り組んではいるが、職員の都合で行いがちになっている。	◎	○	◎	事業所は自然を感じられる静かな環境にあり、庭に出て外気浴を楽しむことができる。また、普段から食材の買い物に利用者と一緒にいたり、ドライブや花見、外食などに出かけたりしている。新居浜太鼓祭りを楽しみにしている利用者には、太鼓台が見に行けるようにするなど外出する機会を持ち、できる限り利用者一人ひとりの希望に沿えるよう支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	実施事例がない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	車椅子を利用して中庭であるが、実施可能な時間に戸外で過ごす機会をもうけている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	本人の希望に応じ、家族の協力のもと自宅等への外出を支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	取り組んではいるが、なかなか実践できないことがある。	/	/	/	食事の下準備や掃除等、職員が見守りながら、利用者ができることについては時間がかかっても自分で行ってもらうよう働きかけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ケアマネジメントにより取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	配慮はしているが、ついつい職員が行ってしまうこともある。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	利用者ごとの意向や得意なことに配慮しながら一緒に作業を行っている。	/	/	/	生活歴や普段のかかわりから利用者が得意とするものや役割を持てるものを把握し、利用者の力が発揮できるような機会を作っている。畑作業や掃除、食事の準備や併設の特養で開かれる茶会の手伝いをしてもらうなど、張り合いのある生活につながるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	本人の状態や意向に応じて、家事作業に参加してもらっている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	事例がない。重度化のため対象者が限定され、工夫が必要である。	/	/	/	

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	外出時には、みだしなみの支援をさりげなく行っている。				買い物の時に好みの服を選んで買ったり、外出時には出かける場所に応じた服装を職員と一緒に考えたりして、おしゃれを楽しめるような支援を行っている。身だしなみや整容の乱れについては、さりげなくカバーできているかどうか職員は疑問に感じている部分があるため、利用者のプライドを大切にしたい支援などを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	家族の協力にて準備、支援を行っている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	促し時の表情を観察しながら、本人の気持ちにそって支援に配慮している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	一緒に目的に応じた衣類の選択を支援をしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	さりげなくは行えていないのではないか。今後、取り組んでいく。	◎	○	△	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	可能な利用者にはなじみの店にいけるように支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	本人の好みの傾向を家族から聞き取り支援を行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事をするまでのプロセスの重要性については、職員間に理解のバラつきがある。				職員が交代で献立を考え、食材の買い物や調理の下準備等を利用者と一緒に行っている。季節を感じられる旬の食材を取り入れたり、事業所の畑で収穫した野菜を使ったりするなど、食べるのが楽しみになるよう工夫している。1日の献立が書かれたボードを食堂に置き、確認できるようにしている。利用者は使い慣れた食器を使い安心して食事をしている。食事介助や見守りをするために職員は利用者と同じテーブルで食事しており、会話をしながら利用者が和やかに食事ができるよう配慮している。献立の内容等について利用者が興味を引くよう声かけをするなど工夫しており、食事の時間が楽しみになっている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	可能な限り利用者の参加を支援している。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者の能力に応じて作業ごとに参加の機会を設けている。失敗回避の促しや達成感につながるような言葉かけに留意している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居前事前面接や利用経過時の観察等から概ね把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	職員が交代で献立を作成、左記については配慮している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者の状態に応じて工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者ごとの使いやすいものを提供、使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員と一緒に食べながら、献立の話題や摂食の促しを行いながらサポートしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事前には、調理の音やにおい、献立の内容等の言葉かけにて配慮している。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	献立作成時のカロリーを計算して作成している。また、水分摂取は1日1500ml以上確保できるように取り組んでいる。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事が少ない場合は好みのもので提供や飲み物は複数の飲物を準備し低栄養や脱水にならないよう工夫している。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	左記について、職員によって得手不得手があるため得意な職員の助言のもと献立を作成している。栄養士のアドバイスは受けていない。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板や布巾等は毎日消毒を行うとともに食材は調理前日に購入している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を十分に理解している。	/	/	/	職員は口腔ケアの必要性について理解しており、毎食後の歯磨きや義歯の手入れなど、口腔内の清潔保持に努めている。月に2回歯科医の往診があり、治療や口腔内の状態、義歯に不具合がないか確認している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認し、状態変化時には職員で共有を行っている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	往診医や歯科衛生士等の助言を共有し取り組んでいる。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	△	ほぼ職員が実施している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	可能な利用者は見守りを行い、不備な部分をさりげなく支援している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	家族報告するとともに往診歯科医師へ依頼、または必要に応じ受診を行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	左記を理解して可能な限りトイレでの排泄を心がけている。	/	/	/	便秘解消のために、食事にオリゴ糖や牛乳寒天を取り入れたり、毎日決まった量の水分をこまめに摂取するなど、気持ちよく自然排便ができるよう取り組んでいる。本人の希望で夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいるが、トイレでの排泄を基本的に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	職員の認識にバラつきがあり、理解が不十分であると思われる。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	利用者ごとの排泄状態を観察、記録にとり習慣やパターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	可能な限りトイレでの排泄を支援している。オムツ使用者については、都度、職員間で話しあい、必要性や適切性について検討している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	利用者ごとのさまざまな要因、誘引を職員間で検討し排泄支援時にとりいれ支援する取り組みを行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表から排泄パターンの把握及びしぐさ等から徴候を観察し誘導を行うようにと取り組んでいる。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人の意向ではなく、職員間で協議したものを提案してしまっている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	排泄状況と陰部の皮膚状態を観察し、適時使い分けを行っている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	さまざまな飲食物や牛乳寒天、食物繊維サプリメント等を使用したり、散歩等の運動の働きかけを行い自然排便を促す取り組みを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	以前は、希望する日に入浴の支援を行っていたが、希望の申出がないため、入浴日を職員側の都合で決めてしまっている。習慣にそった入浴ができているとはいいたい。	◎	/	○	基本的に入浴日は週2回で、利用者の希望があれば個々の要望に沿うよう対応している。現在は基本の入浴日以外に希望する利用者はいないが、夏場に汗をかいた時はシャワー浴をするなど柔軟に対応している。安全に入浴できるよう、シャワーキャリーを導入し利用者の身体状態に応じて使用している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	△	職員都合の場合もあり、くつろいだ入浴ができているとはいいたい。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	利用者の状態能力に応じて支援を行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴の促しに拒否があった場合は、支援者の変更や時間をおいてみたり等の工夫を行い支援している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には、バイタルチェックや表情の観察を行い入浴の見極めを行っている。入浴後は表情や動作から状態の変化の観察を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	入床及び概ねの入眠時刻の観察と夜間帯は巡回にて睡眠パターンを記録に取り把握している。	/	/	/	安眠できるよう薬剤を使用している利用者は少なく、生活リズムを整える取組みがなされている。また、医師と相談して薬の量を減らすなど、薬に頼りすぎないよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取組みを行っている。	○	日中の活動量を上げるように工夫した取組みを行っている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	入居前に薬剤を使用していた利用者については、なるべく減量していくように日課の検討を行い支援に心がけている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	傾眠の多い利用者は、個別に一時的にベッド臥床の誘導を行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	意向がある場合は状況に応じて支援を行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙が困難な場合は代筆したり、電話使用時に近位で円滑に会話ができるように促し等の支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	気兼ねなく電話ができているとはいいがたい。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	家族等から誕生日や記念日に手紙やプレゼント等が届いた場合は、利用者が御礼の電話をかける支援を行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	利用開始時は、なるべく電話や手紙をくれるようお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	職員によって認識にバラつきがあるのではないと思われる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	買い物に出かけることはあるが、本人が使う機会の場面はほとんどない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物先で気軽に言葉かけを行ってくれることから理解や協力が得られていると判断する。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人に所持の意向がある場合は、家族に理解と協力を願って所持については支援を行っている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	必要に応じ、その都度、話し合いの機会をもうけている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	法人の預金規定に基づき管理し、購入物については事前に確認同意を得ている。また、毎月末に出納状況と残高を文書で報告している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	依頼事項や意向については、まず実施可能か検討し可能な限り柔軟に対応するよう取り組んでいる。	◎	/	○	馴染みの場所への外出や、誕生月には利用者の希望する飲食店に行くなど、可能な限り利用者のニーズに対応している。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門扉、玄関等は施錠せず、いつでも気軽に出入りできるように工夫している。また、気候・天候がよい場合は玄関ドアを開いた状態にしていることも多い。	◎	◎	◎	天気のよい日には玄関ドアを開放しており、ソファを置くなど気軽に立ち寄り話ができるような環境づくりをしている。玄関に事業所で収穫したゴーヤが飾られており、温もりを感じられる空間になるよう配慮されている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	過剰な管理は行わず、生活感が感じられる家庭的な雰囲気づくりにつとめている。	◎	○	◎	明るいきりびんぐにはゆっくりとくつろげるようソファが置かれ、事業所のベランダに飛んできた昆虫を飼育しており、面会に来た家族や利用者の会話のきっかけとなっている。室内の明るさはカーテン等で調整されているほか、天候のよい日は窓を開け外気を取り入れている。廊下にはボランティアの方が描いた利用者の笑顔の似顔絵が飾られ、温かみのある雰囲気になるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	△	室内の照度はカーテン等で調整している。天候のよい日は窓を開け外気を取り入れている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	窓をあけることでその季節のにおいを感じてもらっている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	居室や居間で談笑したり、思い思いの場所ですごしてもらっている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレの位置は、共用空間から見えない間取りである。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人が居心地よく過ごせるように家族の理解と協力のもと自由にもちこんでいただいている。	○	/	○	ベッドが備え付けられており、家具や生活用品などは、使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいる。好きな祭りのポスターやお気に入りの写真を飾るなど、居心地良く過ごせる居室になっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレは場所がわかりやすいように生活動線上に配置している。献立のメニュー板に日付を記入している。	/	/	/	居室は食堂や廊下を挟んで3部屋ずつ並んでおり、利用者が自室を認識しやすくなるよう工夫されている。トイレは各フロアに配置され、どの居室からもすぐに行けるようになっている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	認知能力が低下している利用者には混乱を回避するために無地の食器を準備している。殺風景であるがカーテンは単色柄なしのものを使用している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	生活用具は、利用者がいつでも手に取れるように目のつくところに配置している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	防犯のための夜間をのぞき、どこにも施錠はせず、自由に出入りをしてもらっている。	◎	◎	◎	職員は施錠することによる弊害について理解しており、防犯上のための夜間帯以外は玄関や門扉も施錠しておらず、センサーを活用しながら自由に出入りできるようになっている。近隣住民に普段から協力依頼をしているため、実際に敷地外に出てしまった利用者を近隣住民が見つめて対応してくれた事例もあり、自由な暮らしを支えながら安全確保に努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に説明を行い、施錠による弊害と施錠しないリスク及び完全確保対策については説明を行い、理解を得るよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	ユニットの出入り口及び敷地門扉位置にセンサーを設置、また、利用者の行動特性に応じて個別にセンサーを設置している。屋外に出た場合を想定して運営推進会議等をとって近隣住民の理解、協力を依頼している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	事前面接時の聞き取り記録や受診時の記録等で把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	一人ひとりの変化の徴候を観察・把握し記録化している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	同法人併設特養の看護職員の相談し専門的な助言を受ける体制が重篤化の回避に努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	関係構築ができて入居前からのかかりつけ医への受診を支援するようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	上記のほか、特定の診療科へ受診する必要がある場合は、事前に本人及び家族に診療先の希望を確認している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	入居契約時に説明とともに、受診時ごとの合意を得られるように確認を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には、合意のもと必ずサマリーと作成し、必要な情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	医療機関でのカンファレンスに参加できる場合は、退院時の受入要件について協議し、早期に退院できるように情報交換を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	主治医及び医療ソーシャルワーカーとは定期的に情報交換を行い良好な関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	医療連携で来所する看護師に体調の変化や利用者ごとの気づきを報告、対応方針について相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	医慮連携体制あり。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々のバイタルチェックや状態変化時は、必要に応じ看護職員に相談・助言を受け、早期に受診できる対応を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	調剤薬局から薬剤情報を受け取りファイル化しているが、職員によって理解にバラつきがある。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬剤のセットから服薬支援までに、重複チェックが行えるような仕組みを行い誤薬防止に取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	かかりつけ医に処方時、副作用の徴候、観察ポイントを確認し観察の強化に努めている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬の変更があった場合は、特に次回の受診時にかかりつけ医に報告できるように観察の強化に努め記録を行っている。				

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化した場合、状態変化ごとに本人、家族に今後の方針について話し合いを行っている。	/	/	/	入居時や利用者の状態が変化した時などに、事業所として対応できることを本人や家族に説明し、今後の意向を確認するほか、併設の特別養老人ホームの看護師等とも話し合い看取りの方針を共有するなど、連携体制は取れている。職員全員が重度化や終末期のケアについて、さらにスキルアップし重度化にも柔軟に対応できるよう、医師との連携強化にも取り組んで欲しい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	医療支援が必要な場合は、受診時に医療機関で話し合いを行い方針の共有を行っている。	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	利用者ごとに、職員の思い、終末期に対する理解度及び力量、体制について勘案し見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	利用者の状態ごとに事業所の「できること・できないこと」の説明を行い理解が得られるように努めている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	柔軟に対応できるように、往診医の確保について今後の検討課題と考えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	来所時にその日の状態を報告するとともに、利用経過についての思い出を語りながら家族の心情を汲み取るように努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	法人の内部学習会等に参加し対応及び予防策について定期的に学んでいるが、すべての職員が参加できてはいない。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染対策のマニュアルは作成してあるが、手順についての訓練は行われていないのが現状である。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	各機関からの最新情報の収集に努め、対策要領については必要に応じ取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症の流行時期は、来所者にも事業所内に入る前に手指の洗浄・消毒、嗽等の実施協力を依頼している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	△	職員は出勤時に手洗い・嗽を実施する取り決めがある。来訪者のために入り口に手洗い・嗽ができる設備を設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	外出時や事業所内行事、散髪等の実施時に家族の参加、協力を得て共に支えられる関係を築いている。				頻繁に面会に来られる家族もおり、利用者の様子を伝えたり気さくに会話したりすることで、家族が要望を言いやすいよう配慮している。あまり面会に来られない家族には毎月手紙で近況を知らせている。事業所の行事がある際は、家族にも参加を呼びかけ、一緒に楽しんでいる。外出時に撮った写真を家族に見てもらう機会などを作ったり、職員の異動等事業所の運営上のことがわかるような取組みに期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時間や場所に制約をつけず、自由に面会をしていただいている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	事業内外の行事には参加のお誘いをして、参加の場面や機会をもうけている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	法人広報誌の発送と月1回の1ヶ月間の近況報告の手紙を送付している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	家族が知りたいことや不安に感じている具体的な内容の把握ができていない。今度の検討課題である。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時の状態を観察し関係性を探り、必要に応じて近況や現在の状態を説明して認知症の状態についての説明を行い家族が認知症の状態について理解できるように努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	左記については、ほとんどできていない。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	現在、家族会は実施できていない。今後の開催準備として行事等にお誘いし交流の機会と関係づくりに努めている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	△	病気や事故についての発生リスクについては、その都度説明を行っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	面会時には積極的に言葉かけを行い、なにげない会話の中から希望や意向を引き出すように努めている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時の利用契約時には、時間をかけ具体的に説明を行い理解、納得を得られるように取り組んでいる。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	左記のような退居事例はない、退居の場合は本人及び家族が納得の退居先が決定できるまで協議、調整を行う予定である。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居前相談及び入居契約時に料金の説明を細かく説明している。また、報酬改定等で負担金が増える場合はその都度説明文書を配布の上、同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業開始前には住民説明会を開催し地域の理解を図っている。	/	◎	/	地域の夏祭りに参加したり、近くの保育園から園児の訪問の申し出があり園児と交流する機会が作れるなど、地域の中で事業所の認識が高まり、つながりを持つことができている実感がある。事業所の畑で収穫した野菜を地域の人に配っており、気軽に事業所に立ち寄れるような働きかけもしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶はもとより自治会への参加や地域の防災訓練及び行事等には参加をさせていただいている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	利用者が敷地外へ出られた時、近隣住民が保護、連絡をいただいた事例から左記のような理解者が少しづつ増えてきているのではないかと感じている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	地域の方々から立ち寄り遊びに来られる事例はほぼなく、今後の課題と考えている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	事業所近辺での散歩時は挨拶を交わしたり、地域行事についての情報交換を行っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	ボランティアの方に車椅子等の整備、清掃に来所していただいたことはあったが、現在はほぼなし。今後の課題と考えている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域の保育所や学校等と交流を続けており、利用者の生活のハリや楽しみに繋がっているのではと感じている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	外出時に左記のような諸施設を活用し理解を協力を得られるように働きかけている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	このところ利用者の参加がほぼなく、課題と感じている。	△	/	△	運営推進会議は地域の自治会長や民生委員、市職員の参加を得て開催しており、家族は少ないながらも参加がみられるが、利用者の参加がないのが現状なので、利用者や家族が参加しやすいような開催時間や場所などの検討をして欲しい。会議では評価結果等の報告を分かりやすく行っているが、参加者からの提案や意見交換にまで至ることが少ないため課題と感じており、今後は事業所の運営に活かせるような意見や提案等が出しやすいよう会議の開催方法の工夫等を期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	評価終了後は毎年、運営推進会議で報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	×	開催時間の関係上、ほぼ活動報告のみで終了しているのが現状であり。要検討課題である。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	併設の地域密着型特養との同日開催のため制約が多く、もう少し工夫が必要である。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	保険者へ提出するのである。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員の話し合いの中で事業所理念をつくり、日々の実践が理念に基づいたものになるように取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	利用者、家族には利用開始時に事業理念の説明を行っているが、より理解を深めるために働きかけが必要である。地域の人たちには伝えられていないのが現状である。	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員のケアの実勢と力量及び本人の希望等を踏まえ、計画的に法人内外の研修参加を行っている。				職員は事業所内での研修のほか、併設の特別養護老人ホームでの研修や希望する外部の研修にも参加しており、スキルアップできるような環境が作られている。健康診断時にはストレスチェックを行い、職員が目標を掲げ向上心を持って働けるよう取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者は、実務での気付きや必要な知識についてその場その場でアドバイスを行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	法人の処遇改善計画に基づき職場環境・雇用条件の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	市の介護支援専門員連絡会や相互研修には、参加を促し交流の機会をもうけ、意識の向上につながるよう働きかけている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	法人での親睦会を定期に開催し参加したり、健康診断時にはストレスチェックを行っている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	法人の内部学習会で定期的に学ぶ機会をもうけ、具体的な内容の理解に努めている。				勉強会を定期的に行い、具体的にどのようなことが虐待や不適切なケアに当たるのか学んでいるが、理解度が職員によってバラツキがあるので、日頃の業務に問題意識を持ち取り組むと共に、日々のケアを振り返る際に不適切な行為がなかったかの確認など、職員全員一致団結し取り組んで欲しい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	日々のケアについて職員ごとに確認を行っているが、ケアの実践につながるような働きかけに工夫が必要である。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	みすごされることがないように注意を払っているが、通報義務の方法や手順についての理解は職員によってバラツキがある。			△	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	法人の規程により定期的にストレスチェックを行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	法人内の内部学習会において定期的に学ぶ機会があり理解を深めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会等で該当するような事例については、その都度話し合う機会をもうけている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	×	左記のような事例はない。				

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	学ぶ機会はあるが、職員の理解にはバラつきがある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	利用開始時に左記について情報提供を個別に行っているが、活用事例はない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	権利擁護に関する制度の活用はなく、連携体制はほとんどない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	対応マニュアルは作成してあるが、内容についての周知は不十分である。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行われてはいない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	ヒヤリハット報告の件数が少なく、リスクマネジメントについての見直しが必要である。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員会等で利用者の状態に応じ、リスクや危険について検討し事故発生防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作成しているが、職員の理解にバラつきがある。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	家族からの苦情事例はないが、地域からの苦情については、法人代表者に報告するとともに、マニュアルの手順にそって対応を行った。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	事業開始から現在まで苦情事例がない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	利用者には、普段の日常会話から意見や要望を聞き取るように取り組んでいる。			◎	毎月の職員会で、職員は管理者に意見や要望を伝える機会があり、職員会以外でも何かあればすぐに管理者に相談できる環境にある。利用者からの要望は、職員と2人になるドライブの道中や入浴時などに話しやすいように働きかけ、日常の会話から聞くこともある。家族の要望については、面会時に会話をする時間を設けており、面会に来られない家族には手紙で確認などしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	利用開始時に相談窓口及び意見箱についての説明は行っている。面会時等や行事にて来所された時に意見や要望を聞き取るように取り組んでいる。	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約当初のみでの情報提供である。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	法人代表者は定期的に来所し、職員の要望や提案を聞く機会に努めている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員個別の気づきや意見を取り入れ、利用者本位の支援を実践できるように努めている。			○	

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価は年1回全職員で実施している。意義や目的の理解については不十分である。	/	/	/	自己評価は年に1回職員全員で取り組み、日頃のケアを振り返っている。サービス評価に関する取組みを運営推進会議などで報告するなど、モニターとしての協力を得ることで、さらに充実した内容となるよう今後期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価内容にて取り組むべき課題の明確化をおこなってはいるが、意識統一の活用にはつなげられていないのではないかと思われる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成計画を作成し目標達成に向けてとらえている。計画達成の実現にはさらなる取り組みが必要であった。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	取り組みのモニターをしてもらっていなかった。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	運営推進会議では、取り組みの成果についての報告は行っていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	対応マニュアルは作成してあるが、内容についての周知は不十分である。	/	/	/	地震や火災、夜間想定など様々な災害や場面を想定した避難訓練を行っている。職員は年に1回併設の特別養護老人ホームで行われる地域防災訓練に参加しているが、利用者が参加しての合同訓練は行われていないため、今後利用者の安全確保に万全を期すためにも利用者参加で実施することが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回昼夜ごとの避難訓練を実施したり、実動なしの想定訓練や利用者の避難能力の理解や把握に目的とした訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消防設備や避難経路の点検は専門業者委託、非常食や備品、物品の点検は管理者が定期的に行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域自治会とは防災協定を交わし、協力、支援体制を確保しているが、利用者が参加する合同訓練はまだ行っていない。	×	○	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	年1回地域防災訓練には、職員を派遣し地域の災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域の研修や集会等には、要請にて管理者及び職員の派遣を行っている。	/	/	/	地域の介護予防教室に講師として参加し、地域に情報発信を行っている。入居相談等可能な限り地域の相談にも応じている。関係機関との連携には取り組んでいるが、まだ地域活動への参加までには至っていないので、要請があれば参加するのではなく積極的にこちらから参加するなど、前向きな気持ちで取り組むことに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入居相談には、可能なかぎり相談者の都合に合わせて相談支援を行っている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	左記のような事業所の開放は行っていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	研修事業等の実習の受入については、利用者及び家族の了承のもと受け入れに協力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	各関係機関との連携に取り組んでいる。要請があれば地域活動の参加協力を行う予定である。	/	/	△	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月19日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3890500220
事業所名	グループホームふたばの森
(ユニット名)	くるみ(2階)
記入者(管理者)	
氏名	高橋 俊道
自己評価作成日	平成29年10月1日

<p>【事業所理念】利用者とともに、楽しく笑顔のある暮らし ①1日1日、その時その時を大切に、 ②生活者を大切に思う心(愛) ③ありがたみを受け入れる ④利用者一人ひとりの思いを大切にします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】運営推進会議についてより多くの人に参加できるように、運営推進会議の参加者の見直し及び会議運用の見直しを行う。 【取組内容】①地域包括支援センター職員への派遣の要請 ②現参加者への協力者の呼びかけ・依頼 ③入居相談及び申込者への参加の呼びかけ 【その結果】地域包括支援センター職員への派遣要請は介護福祉課から市担当職員を派遣しているため行政からの派遣は1名にしてほしいとの回答あり。②現参加者への呼びかけ及び③入居相談者への参加呼びかけについては新たな参加者の獲得にはつながっていないため新たな取り組みが必要である。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】事業所が開設して6年がたち、地域との交流を重ねてつながりが深まってきており、利用者を見守ってくれる近隣の住民の支援も見られ、さらに地域の一員としてお互いに支え合える関係づくりに取り組んでいる。食事は職員が交代で献立を考えて、食材の買い物や食事の下準備を利用者と一緒に行っている。入居時から重度化が見られる利用者もいるが、利用者のできることを大切にして、一人ひとりが楽しみをもって安心して暮らしていくことができるよう支援している。</p>
--	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	日常会話の中から希望や意向の把握に努めて、家族の面会前後に意向の聞き取りを行っている。	◎	/	◎	家族や利用者からの情報に加えて、普段の生活の中で見られる利用者の表情や言動から思いや希望を汲み取っている。暮らし方の希望や思いを記入する様式も整っており、日々の申し送りの機会を活用するなど、職員全員が情報を共有できるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	日々の関わりの中での利用者の表情やしぐさで検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	家族等の来所時に短時間であるが話し合いの機会をなるべく設けている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	日々の会話や表情等を経過記録に記入し、職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人との会話等を職員間で話し合い、独善的にならないように留意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前の面接時の聞き取り、アルバム等を持参してもらい日常会話の中から左記項目の聞き取りを行っている。	/	/	◎	入居前に自宅訪問を行い、本人や家族から今までの生活環境について状況を確認しながら、可能な範囲で情報を得ている。日々の生活から利用者のこだわりや暮らしの中で大切にしてきたことなどを細やかに汲み取り、記録して職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常生活状況の観察の中から、有する力の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	利用者の表情や発言の中から、利用者ごとの特性の観察を行い職員間で共有して把握に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	本人の発言や表情の変化を観察し不安、不安定になった要因をその都度、職員間で共有し把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	経過記録や生活記録に左記の観察内容を記入し把握につとめている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	収集した情報を職員会等で話し合いを行っている。	/	/	△	毎月の職員会での話し合いや家族と連携を取りながら必要な支援について検討しているが、さらに利用者の視点での支援内容の検討が必要だと感じており、取組みに期待したい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	必要なケアとは何かと考えながらケアを行い、職員それぞれが感じたことを職員会で検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	職員会で検討した項目ごとに課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	不十分であると考える。	/	/	/	本人や家族から聞き取った思いや意向が反映された介護計画になるよう職員で話し合っ、計画作成担当者が作成している。利用者がどのようなことに生きがいを感じられるか把握し、より良く暮らせるための課題やケア内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	ことあるごとに話し合い、意見やアイデアを取り入れるように配慮はしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	不十分であると考える。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	協力体制が盛り込まれた内容とはいいたい。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	共有の工夫が必要であると考える。	/	/	○	利用者ごとのファイルに介護計画を保管し、課題や支援内容を確認している。経過記録に利用者の言葉や行動、エピソードが記載されており、職員間で情報を共有することにより、日々のケアの工夫やアイデアにつなげている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	計画内容が抽象的で実践結果があいまいになりがちである。もうひと工夫が必要であると考える。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	状態については、詳細に記録するように努めている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	経過記録の記載方法に工夫が必要であると考える。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	要介護認定有効期限ごとに見直しを行っている。	/	/	○	定期的に介護計画の見直しを行い、現状に即した内容になっているか計画作成担当者が確認し、職員間で話し合っている。状態の変化があった場合は、その都度利用者や家族の意見も聞き変更している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	職員会等で利用者ごとに話しあいを行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	状態変化時は随時、本人、家族等に連絡し見直しを行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	職員会等で定期的に行っている。	/	/	◎	毎月の職員会で利用者の情報や課題について話し合っている。なるべく多くの職員が出席できるよう配慮しており、出られなかった職員には記録や口頭で伝え、情報の共有に努めている。利用者の日々の状況などは毎日の申し送り時に伝えており、必要がある場合にはその都度話し合いの機会が持たれている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	会議に進行については、もうひと工夫が必要であると考える。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	会議日程については、なるべく多くの職員が参加できるように勤務表作成時に配慮している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録の確認 捺印 ユニットリーダーが個別に申し送りを行っている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	申し送り簿の確認及び捺印 口頭での申し送りにて共有しているが、まれにもれあり。	/	/	◎	利用者の情報や伝達事項は、申し送りノートの活用や経過記録に記入する等して、勤務時間が違っていても職員全員に伝わるような仕組みになっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	朝礼時の申し送り及び申し送り簿の確認等で伝達できるようにとらんでいる。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	利用者の申し出に応じて対応できることは実施するように努力している。	/	/	/	利用者の重度化により思いや意向を表しにくい場合もあるが、日常の関わりの中でどのようなことに喜びや楽しみを感じているのか気に留めながら支援を行っている。利用者が好みの飲み物を選んだり、新聞広告やテレビを見ながら食べたいものを決めたりするなど、自己決定できる機会を作っている。利用者それぞれに馴染みのある場所などについて声をかけをするよう心がけており、昔を懐かしく思い出してもらっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	衣類や外食時の選択等を機会をもうけている。が職員側で決定してしまう場面もみられるのではないかとと思われる。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	わかる力に合わせて、なるべく自己決定の機会をもうけているが職員が誘導しているのではないかとと思われることもある。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	左記の日課については、なるべく一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っているが、業務及び職員側の都合で誘導してしまう場面もあるのではないかとと思われる。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	利用者に応じた言葉がけに配慮し取り組んでいる。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	表情や動作等の観察を行い、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援に取り組んでいる。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	△	法人の内部学習会で学ぶ機会あり。常に意識して行動しているとは言いがたいのではないかと。	◎	○	○	利用者の誇りやプライバシーを大切に、声かけには十分配慮している。入浴時に同性介助を希望する利用者には、希望に沿うよう努めている。介助を行う際の声かけや言葉遣いには配慮しているが、トイレ誘導時のふさわしくない声かけや行動を制限するような言動等が見られたり、入室の際にドアを開けっ放しするなど利用者のプライバシー尊重に欠けることもあるので、研修や話し合いによる振り返りの機会を持つなど、利用者本位のケアに努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	愛称での呼称やトイレ誘導時等に左記の配慮に欠ける言動がみられることがあるのではないかとと思われる。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	左記の配慮に欠ける言動がみられる。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	十分に配慮しているとは言いがたい。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報保護については入職時に誓約、遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	△	利用者からの協力の申出等から職員が助けられる場面も見られる。	/	/	/	移動時に利用者が車いすを押したり、声かけをしながら肩をマッサージするなど、利用者同士が支え合う光景がみられる。利用者間でトラブルになりそうな時には、職員がさりげなく間に入り未然に防ぐことで、トラブル解消に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者間で支え合う場面もみられ、職員側が教えられることも多い。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し、左記のような支援になるようにさりげなく居場所の誘導を行ったり、言葉かけを行っている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り関係の修正と多利用者にも配慮した言葉かけを行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	家族以外の情報は不足している。把握方法について検討が必要である。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人及び家族からの聞き取りから把握しているが、情報が不足しているのではないかとと思われる。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	面会に来られることはあるが、出かけていくことはほぼ実践できていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会の時間や場所は特に設定せず、自由にしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	散歩や畑への外出は希望にそうように配慮はしているが、業務や職員の都合が優先しているのではないかと。	◎	○	◎	事業所は自然を感じられる静かな環境にあり、庭に出て外気浴を楽しむことができる。また、普段から食材の買い物に利用者と一緒にいたり、ドライブや花見、外食などに出かけたりしている。新居浜太鼓祭りを楽しみにしている利用者には、太鼓台が見に行けるようにするなど外出する機会を持ち、できる限り利用者一人ひとりの希望に沿えるよう支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	事例なし。協力者を検討していきたい。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	家族の面会時に協力していただき散歩等をしている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	事例なし。今後、働きかけを行っていきたい。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	取り組んではいるが、なかなか実践できないことがある。	/	/	/	食事の下準備や掃除等、職員が見守りながら、利用者ができることについては時間がかかっても自分で行ってもらうよう働きかけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。	○	利用者ごと機能低下について理解し、状態に応じた支援内容を行い、機能維持に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	左記に留意し取り組んでいるが、職員が手を出してしまう場面も見られる。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	活動的な一部の利用者は概ね把握できている。得手不得手に配慮しながら一緒に作業を行っている。	/	/	/	生活歴や普段のかかわりから利用者が得意とするものや役割を持てるものを把握し、利用者の力が発揮できるような機会を作っている。畑作業や掃除、食事の準備や併設の特養で開かれる茶会の手伝いをしてもらうなど、張り合いのある生活につながるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	本人の意向にそって作業に参加していただいている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	事例なし。今後の検討課題である。	/	/	/	

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	面会時に家族等から衣類等の好みを確認している。				買い物の時に好みの服を選んで買ったり、外出時には出かける場所に応じた服装を職員と一緒に考えたりして、おしゃれを楽しめるような支援を行っている。身だしなみや整容の乱れについては、さりげなくカバーできているかどうか職員は疑問に感じている部分があるため、利用者のプライドを大切にしたい支援などを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	家族の協力のもと準備している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	自己決定が可能な時期の状態を勧奨し支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	目的に応じた衣類の選択を支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	カバーは行っているが、言葉かけや修正時さりげなくはできていないのではないかと。	◎	○	△	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	現在は、来所してくれている理容師である。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	家族からの聞き取りや意向にそって支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	職員によって認識のバラつきあり。				職員が交代で献立を考え、食材の買い物や調理の下準備等を利用者と一緒に行っている。季節を感じられる旬の食材を取り入れたり、事業所の畑で収穫した野菜を使ったりするなど、食べることが楽しみになるよう工夫している。1日の献立が書かれたボードを食堂に置き、確認できるようにしている。利用者は使い慣れた食器を使い安心して食事をしている。食事介助や見守りをするために職員は利用者と同じテーブルで食事しており、会話をしながら利用者が和やかに食事ができるよう配慮している。献立の内容等について利用者が興味を引くよう声かけをするなど工夫しており、食事の時間が楽しみになっている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	なるべく利用者に参加してもらっているが、職員が実施してしまうこともある。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者の意向や自主性を尊重し参加の機会を設けている。自分の役割と認識している利用者もおられる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	面接時の聞き取り 経過観察から把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	左記について配慮はしているが、職員が準備・調理しやすい献立を優先してしまっているのではないかとと思われることもある。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	左記のような状態に応じて、配慮、対応している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	利用者の状態に応じた使いやすいものを提供、使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員は、一緒に食べながら献立の説明や摂食の誘導を支援している。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事前には、調理のにおいや音があり、献立の内容等の言葉かけにて配慮している。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	献立作成時のカロリーを計算して作成している。また、水分摂取量は1日1500ml以上確保できるように取り組んでいる。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	利用者の好みに応じて摂食可能な献立やジュース等を複数準備して摂取の促しを行っている。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	調理方法や献立等の知識についてバラつきがある。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板や布巾等は毎日消毒を行うとともに食材は調理前日に購入している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を十分に理解している。	/	/	/	職員は口腔ケアの必要性について理解しており、毎食後の歯磨きや義歯の手入れなど、口腔内の清潔保持に努めている。月に2回歯科医の往診があり、治療や口腔内の状態、義歯に不具合がないか確認している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食後の口腔ケア時に確認し把握している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	往診医や歯科衛生士等の助言を共有しとりくんでいる。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯の洗浄等は利用者の能力に応じて支援し、消毒等は職員が行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	可能な利用者は見守りを行い、不備な部分をさりげなく支援している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	家族へ報告するとともに往診歯科医師へ依頼、または必要に応じ受診を行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	排泄の自立やオムツ使用の弊害について十分に理解しているとは言いがたい。	/	/	/	便秘解消のために、食事にオリゴ糖や牛乳寒天を取り入れたり、毎日決まった量の水分をこまめに摂取するなど、気持ちよく自然排便ができるよう取り組んでいる。本人の希望で夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいるが、トイレでの排泄を基本に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	職員の認識にバラつきがあり、理解が不十分であると思われる。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	利用者ごとの排泄状態を観察、記録にとり習慣やパターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	△	原則、トイレでの排泄を支援している。オムツ使用者については、その都度、職員間で話しあいを行っている。	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	利用者ごとのさまざまな要因、誘引を職員間で検討し排泄支援時にとりいれ支援する取り組みを行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表から排泄パターンの把握及びしぐさ等から徴候を観察し誘導を行うようにとりくんでいる。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	職員間で検討したものを家族に説明して対応している。本人の意向を確認しているとは言いがたい。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	排尿量や排泄頻度に応じて使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	さまざまな飲食物や牛乳寒天、食物繊維サプリメント等を使用したり、散歩等の運動の働きかけを行い自然排便を促す取り組みを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	×	ほぼ職員の都合で行っているのではないと思われる。見直しが必要である。	/	◎	○	基本的に入浴日は週2回で、利用者の希望があれば個々の要望に沿うよう対応している。現在は基本の入浴日以外に希望する利用者はいないが、夏場に汗をかいた時はシャワー浴をするなど柔軟に対応している。安全に入浴できるよう、シャワーキャリーを導入し利用者の身体状態に応じて使用している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	利用者ごとにくつろいだ入浴ができるように配慮している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	△	支援内容については、職員間でバラつきがあるのではないと思われる。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	△	支援者を変更したり、時間をおいたり工夫を行っているが、本人の理解を得られずに入浴支援をしてしまう場面もあるのではないかと。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前は、バイタルや検温、表情等を確認し入浴の促しを行っている。入浴後は水分補給時に状態の変化についての確認を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	概ねの入眠時刻と夜間巡回等を記録にとり睡眠パターンを把握している。	/	/	/	安眠できるよう薬剤を使用している利用者は少なく、生活リズムを整える取組みがなされている。また、医師と相談して薬の量を減らすなど、薬に頼りすぎないように支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	言葉かけにて不安要因の排除や日中の活動量を調整するような支援に心がけている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	やむを得ず安定剤を服用している利用者については、受診ごとに主治医に相談しながら減量についての方策を検討している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者の申出や表情に応じて休息、昼寝等の支援を行っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	意向や状態に応じて家族の協力のもと行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	意向に応じて支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	気兼ねなくできているとはいえない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙等受け取った場合は、能力に応じて返信するか、電話等を使用して音信がとれるように工夫している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	利用者側からの発信については理解と協力を依頼しているが、家族からの連絡については依頼が不十分である。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	職員によって認識にバラつきがあるのではないと思われる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	買い物に出かけることはあるが、本人が使う機会の場面はほとんどない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物先で気軽に言葉かけを行ってくれることから理解や協力が得られていると判断する。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人に所持の意向がある場合は、家族に理解と協力を願って所持については支援を行っている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	必要に応じ、その都度、話し合いの機会をもうけている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	法人の預金規定に基づき管理し、購入物については事前に確認同意を得ている。また、毎月末に出納状況と残高を文書で報告している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	依頼事項や意向については、まず実施可能か検討し可能な限り柔軟に対応するよう取り組んでいる。	◎	/	○	馴染みの場所への外出や、誕生日には利用者の希望する飲食店に行くなど、可能な限り利用者のニーズに対応している。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門扉、玄関等は施錠せず、いつでも気軽に出入りできるように工夫している。	◎	◎	◎	天気の良い日には玄関ドアを開放しており、ソファを置くなど気軽に立ち寄り話ができるような環境づくりをしている。玄関に事業所で収穫したゴーヤが飾られており、温もりを感じられる空間になるよう配慮されている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	過剰な管理は行わず、生活感が感じられる家庭的な雰囲気づくりにつとめている。	◎	○	◎	明るいきりびんぐにはゆっくりとくつろげるようソファが置かれ、事業所のベランダに飛んできた昆虫を飼育しており、面会に来た家族や利用者の会話のきっかけとなっている。室内の明るさはカーテン等で調整されているほか、天候のいい日は窓を開け外気を取り入れている。廊下にはボランティアの方が描いた利用者の笑顔の似顔絵が飾られ、温かみのある雰囲気になるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	利用者が眩しくないようにカーテンで調整している。なるべく不快な音がたたないように配慮している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	窓をあけることでその季節のにおいを感じてもらっている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	思い思いの場所ですごせるようにしていただいている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレの位置は、共用空間から見えない間取りである。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人が居心地よく過ごせるように家族の理解と協力のもと自由にもちこんでいただいている。	○	/	○	ベッドが備え付けられており、家具や生活用品などは、使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいる。好きな祭りのポスターやお気に入りの写真を飾るなど、居心地良く過ごせる居室になっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレは場所がわかりやすいように生活動線上に配置している。献立のメニュー板に日付を記入している。	/	/	○	居室は食堂や廊下を挟んで3部屋ずつ並んでおり、利用者が自室を認識しやすくなるよう工夫されている。トイレは各フロアに配置され、どの居室からもすぐに行けるようになっている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	認知能力が低下して利用者には混乱を回避するために無地の食器を準備している。殺風景であるがカーテンは単色柄なしのものを使用している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	生活用具は利用者がいつでも手に取れるように眼のつくところに配置している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	防犯のための夜間をのぞき、どこにも施錠はせず、自由に出入りをしてもらっている。	◎	◎	◎	職員は施錠することによる弊害について理解しており、防犯上のための夜間帯以外は玄関や門扉も施錠しておらず、センサーを活用しながら自由に出入りできるようになっている。近隣住民に普段から協力依頼をしているため、実際に敷地外に出てしまった利用者を近隣住民が見つめて対応してくれた事例もあり、自由な暮らしを支えながら安全確保に努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に説明を行い、施錠による弊害と施錠しないリスク及び完全確保対策については説明を行い、理解を得るよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	ユニットの出入り口及び敷地門扉位置にセンサーを設置、また、利用者の行動特性に応じて個別にセンサーを設置している。屋外に出た場合を想定して運営推進会議等をとって近隣住民の理解、協力を依頼している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	事前面接時の聞き取り記録や受診時の記録等で把握に努めている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	一人ひとりの変化の徴候を観察・把握し記録化している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	同法人併設特養の看護職員の相談し専門的な助言を受ける体制が重篤化の回避に努めている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	関係構築ができて入居前からのかかりつけ医への受診を支援するようにしている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	上記のほか、特定の診療科へ受診する必要がある場合は、事前に本人及び家族に診療先の希望を確認している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	入居契約時に説明とともに、受診時ごとの合意を得られるように確認を行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には、合意のもと必ずサマリーと作成し、必要な情報提供を行っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	医療機関でのカンファレンスに参加できる場合は、退院時の受入要件について協議し、早期に退院できるように情報交換を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	主治医及び医療ソーシャルワーカーとは定期的に情報交換を行い良好な関係づくりに努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	医療連携で来所する看護師に体調の変化や利用者ごとの気づきを報告、対応方針について相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	医慮連携体制あり。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々のバイタルチェックや状態変化時は、必要に応じ看護職員に相談・助言を受け、早期に受診できる対応を行っている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	調剤薬局から薬剤情報を受け取りファイル化しているが、職員によって理解にバラつきがある。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬剤のセットから服薬支援までに、重複チェックが行えるような仕組みを行い誤薬防止に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	かかりつけ医に処方時、副作用の徴候、観察ポイントを確認し観察の強化に努めている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬の変更があった場合は、特に次回の受診時にかかりつけ医に報告できるように観察の強化に努め記録を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化した場合、状態変化ごとに本人、家族に今後の方針について話し合いを行っている。	/	/	/	入居時や利用者の状態が変化した時などに、事業所として対応できることを本人や家族に説明し、今後の意向を確認するほか、併設の特別養老人ホームの看護師等とも話し合い看取りの方針を共有するなど、連携体制は取れている。職員全員が重度化や終末期のケアについて、さらにスキルアップし重度化にも柔軟に対応できるよう、医師との連携強化にも取り組んで欲しい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	医療支援が必要な場合は、受診時に医療機関で話し合いを行い方針の共有を行っている。	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	利用者ごとに、職員の思い、終末期に対する理解度及び力量、体制について勘案し見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	利用者の状態ごとに事業所の「できること・できないこと」の説明を行い理解が得られるように努めている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	柔軟に対応できるように、往診医の確保について今後の検討課題と考えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	来所時にその日の状態を報告するとともに、利用経過についての思い出を語りながら家族の心情を汲み取るように努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	法人の内部学習会等に参加し対応及び予防策について定期的に学んでいるが、すべての職員が参加できてはいない。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染対策のマニュアルは作成してあるが、手順についての訓練は行われていないのが現状である。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	各機関からの最新情報の収集に努め、対策要領については必要に応じ取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症の流行時期は、来所者にも事業所内に入る前に手指の洗浄・消毒、嗽等の実施協力を依頼している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は出勤時に手洗い・嗽を実施する取り決めがある。来訪者のために入り口に手洗い・嗽ができる設備を設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	外出時や事業所内行事、散髪等の実施時に家族の参加、協力を得て共に支えられる関係を築いている。				頻繁に面会に来られる家族もおり、利用者の様子を伝えたり気さくに会話したりすることで、家族が要望を言いやすいよう配慮している。あまり面会に来られない家族には毎月手紙で近況を知らせている。事業所の行事がある際は、家族にも参加を呼びかけ、一緒に楽しんでいる。外出時に撮った写真を家族に見てもらう機会などを作ったり、職員の異動等事業所の運営上のことがわかるような取組みに期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時間や場所に制約をつけず、自由に面会をしていただいている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	事業内外の行事には参加のお誘いをして、参加の場面や機会をもうけている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	法人広報誌の発送と月1回の1ヶ月間の近況報告の手紙を送付している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	×	家族が知りたいことや不安に感じている具体的な内容の把握ができていない。今後の検討課題である。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時の状態を観察し関係性を探り、必要に応じて近況や現在の状態を説明して認知症の状態についての説明を行い家族が認知症の状態について理解できるように努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	左記については、ほとんどできていない。		×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	現在、家族会は実施できていない。今後の開催準備として行事等にお誘いし交流の機会と関係づくりに努めている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	病気や事故についての発生リスクについては、その都度説明を行っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には積極的に言葉かけを行い、なにげない会話の中から希望や意向を引き出すように努めている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時の利用契約時には、時間をかけ具体的に説明を行い理解、納得を得られるように取り組んでいる。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	左記のような退居事例はない、退居の場合は本人及び家族が納得の退居先が決定できるまで協議、調整を行う予定である。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居前相談及び入居契約時に料金の説明を細かく説明している。また、報酬改定等で負担金が増える場合はその都度説明文書を配布の上、同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業開始前には住民説明会を開催し地域の理解を図っている。	/	◎	/	地域の夏祭りに参加したり、近くの保育園から園児の訪問の申し出があり園児と交流する機会が作れるなど、地域の中で事業所の認識が高まり、つながりを持つことができている実感がある。事業所の畑で収穫した野菜を地域の人に配っており、気軽に事業所に立ち寄れるような働きかけもしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶はもとより自治会への参加や地域の防災訓練及び行事等には参加をさせていただいている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	利用者が敷地外へ出られた時、近隣住民が保護、連絡をいただいた事例から左記のような理解者が少しづつ増えてきているのではないかと感じている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	地域の方々から立ち寄り遊びに来られる事例はほぼなく、今後の課題と考えている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	事業所近辺での散歩時は挨拶を交わしたり、地域行事についての情報交換を行っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	ボランティアの方に車椅子等の整備、清掃に來所していただいたことはあったが、現在はほぼなし。今後の課題と考えている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域の保育所や学校等と交流を続けており、利用者の生活のハリや楽しみに繋がっているのではと感じている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	外出時に左記のような諸施設を活用し理解を協力を得られるように働きかけている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	このところ利用者の参加がほぼなく、課題と感じている。	△	/	△	運営推進会議は地域の自治会長や民生委員、市職員の参加を得て開催しており、家族は少ないながらも参加がみられるが、利用者の参加がないのが現状なので、利用者や家族が参加しやすいような開催時間や場所などの検討をして欲しい。会議では評価結果等の報告を分かりやすく行っているが、参加者からの提案や意見交換にまで至ることが少ないため課題と感じており、今後は事業所の運営に活かせるような意見や提案等が出しやすいよう会議の開催方法の工夫等を期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	評価終了後は毎年、運営推進会議で報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	×	開催時間の関係上、ほぼ活動報告のみで終了しているのが現状であり。要検討課題である。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	併設の地域密着型特養との同日開催のため制約が多く、もう少し工夫が必要である。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	保険者へ提出するのである。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員の話し合いの中で事業所理念をつくり、日々の実践が理念に基づいたものになるように取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	利用者、家族には利用開始時に事業理念の説明を行っているが、より理解を深めるために働きかけが必要である。地域の人たちには伝えられていないのが現状である。	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員のケアの実勢と力量及び本人の希望等を踏まえ、計画的に法人内外の研修参加を行っている。				職員は事業所内での研修のほか、併設の特別養護老人ホームでの研修や希望する外部の研修にも参加しており、スキルアップできるような環境が作られている。健康診断時にはストレスチェックを行い、職員が目標を掲げ向上心を持って働けるよう取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者は、実務での気付きや必要な知識についてその場その場でアドバイスを行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	法人の処遇改善計画に基づき職場環境・雇用条件の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	市の介護支援専門員連絡会や相互研修には、参加を促し交流の機会をもうけ、意識の向上につながるよう働きかけている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	法人での親睦会を定期に開催し参加したり、健康診断時にはストレスチェックを行っている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	法人の内部学習会で定期的に学ぶ機会をもうけ、具体的な内容の理解に努めている。				勉強会を定期的に行い、具体的にどのようなことが虐待や不適切なケアに当たるのか学んでいるが、理解度が職員によってバラツキがあるので、日頃の業務に問題意識を持ち取り組むと共に、日々のケアを振り返る際に不適切な行為がなかったかの確認など、職員全員一致団結し取り組んで欲しい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	日々のケアについて職員ごとに確認を行っているが、ケアの実践につながるような働きかけに工夫が必要である。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	みすごされることがないように注意を払っているが、通報義務の方法や手順についての理解は職員によってバラツキがある。			△	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	法人の規程により定期的にストレスチェックを行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	法人内の内部学習会において定期的に学ぶ機会があり理解を深めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会等で該当するような事例については、その都度話し合う機会をもうけている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	×	左記のような事例はない。				

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	学ぶ機会はあるが、職員の理解にはバラつきがある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	利用開始時に左記について情報提供を個別に行っているが、活用事例はない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	権利擁護に関する制度の活用はなく、連携体制はほとんどない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	対応マニュアルは作成してあるが、内容についての周知は不十分である。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行われてはいない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	ヒヤリハット報告の件数が少なく、リスクマネジメントについての見直しが必要である。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員会等で利用者の状態に応じ、リスクや危険について検討し事故発生防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作成しているが、職員の理解にバラつきがある。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	家族からの苦情事例はないが、地域からの苦情については、法人代表者に報告するとともに、マニュアルの手順にそって対応を行った。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	事業開始から現在まで苦情事例がない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	利用者には、普段の日常会話から意見や要望を聞き取るように取り組んでいる。			◎	毎月の職員会で、職員は管理者に意見や要望を伝える機会があり、職員会以外でも何かあればすぐに管理者に相談できる環境にある。利用者からの要望は、職員と2人になるドライブの道中や入浴時などに話しやすいように働きかけ、日常の会話から聞くこともある。家族の要望については、面会時に会話をする時間を設けており、面会に来られない家族には手紙で確認などしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	利用開始時に相談窓口及び意見箱についての説明は行っている。面会時等や行事にて来所された時に意見や要望を聞き取るように取り組んでいる。	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約当初のみでの情報提供である。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	法人代表者は定期的に来所し、職員の要望や提案を聞く機会に努めている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員個別の気づきや意見を取り入れ、利用者本位の支援を実践できるように努めている。			○	

愛媛県グループホームふたばの森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価は年1回全職員で実施している。意義や目的の理解については不十分である。	/	/	/	自己評価は年に1回職員全員で取り組み、日頃のケアを振り返っている。サービス評価に関する取組みを運営推進会議などで報告するなど、モニターとしての協力を得ることで、さらに充実した内容となるよう今後期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価内容にて取り組むべき課題の明確化をおこなってはいるが、意識統一の活用にはつなげられていないのではないかと思われる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成計画を作成し目標達成に向けてとらえている。計画達成の実現にはさらなる取り組みが必要であった。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	取り組みのモニターをしてはもらっていなかった。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	運営推進会議では、取り組みの成果についての報告は行っていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	対応マニュアルは作成してあるが、内容についての周知は不十分である。	/	/	/	地震や火災、夜間想定など様々な災害や場面を想定した避難訓練を行っている。職員は年に1回併設の特別養護老人ホームで行われる地域防災訓練に参加しているが、利用者が参加しての合同訓練は行われていないため、今後利用者の安全確保に万全を期すためにも利用者参加で実施することが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回昼夜ごとの避難訓練を実施したり、実動なしの想定訓練や利用者の避難能力の理解や把握に目的とした訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消防設備や避難経路の点検は専門業者委託、非常食や備品、物品の点検は管理者が定期的に行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域自治会とは防災協定を交わし、協力、支援体制を確保しているが、利用者が参加する合同訓練はまだ行っていない。	×	○	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	年1回地域防災訓練には、職員を派遣し地域の災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域の研修や集会等には、要請にて管理者及び職員の派遣を行っている。	/	/	/	地域の介護予防教室に講師として参加し、地域に情報発信を行っている。入居相談等可能な限り地域の相談にも応じている。関係機関との連携には取り組んでいるが、まだ地域活動への参加までには至っていないので、要請があれば参加するのではなく積極的にこちらから参加するなど、前向きな気持ちで取り組むことに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入居相談には、可能なかぎり相談者の都合に合わせて相談支援を行っている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	左記のような事業所の開放は行っていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	研修事業等の実習の受入については、利用者及び家族の了承のもと受け入れに協力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	各関係機関との連携に取り組んでいる。要請があれば地域活動の参加協力を行う予定である。	/	/	△	